

クラブ活動を通してみた高専教育について

中山 克彦*・山岡 邦雄**・金田 昭久*
花田 祐策*・中村 貢治*

A report on the education at technical colleges from the viewpoint of club activities

Katsuhiko Nakayama, Kunio Yamaoka, Teruhisa Kaneda,
Yusaku Hanada, and Kouji Nakamura

Abstract

It is thirty years since the technical colleges were established. Now big waves of change are surging upon the colleges. At this juncture, we investigated into the education at colleges toward a new stage. We considered the education at colleges by deviding it into three parts, intellectual training, moral education and physical training. We obtained information from our graduates through a questionnaire. We found that club activities and dormitory life were the most important. We teachers often incline to turn our attention to intellectual training, but there is a big gap between the recognition of our graduates and ours. Next we investigated the results of sports clubs of our college at the athletic meets of all the technical colleges in Japan. The results were rather gratifying. This fact seems to be derived from a unique system at the period of establishment of our college.

From these results we must lay emphasis on moral education and physical training as well as on intellectual training.

1. はじめに

本校は一期校で機械工学科(2学級), 電気工学科の2学科3学級から発足し, その後学科改組・増設等で現在機械工学科, 電気工学科, 制御情報工学科, 物質工学科, 経営情報学科の5学科5学級となっている。また昭和44年より全寮制となり, 以後原則的に全寮制を続けている。創立以来, 卒業生は約3800人となり全国的に活躍している。

高専教育が目的とする「実践的技術者」には1. 専門知識の獲得能力, 2. 社会的倫理的判断能力, 3. 課題に

積極的に立ち向かう行動能力などが必要で, いわゆる知育・徳育・体育に対応している^{1,2)}。

近年高専には新学科の増設, 学科改組, 専攻科の設置, 学校5日制, 留学生の受け入れ, 女子学生の急増, 中学生人口の減少などといった大きな変化の波が押し寄せている。しかしながらいかに形が変化しても15~20歳までの青少年教育, 即ち少年・少女から青年への自立という基本的側面は不変である。

これまで高専教育について幾多の報告, 提言³⁻⁹⁾が行われて来た。本校も創立30年の新しい節目をむかえるにあたり, 新しい時代にむけてどのように対処してゆくべきか指標を模索した。そのためにまず本校における教育の成果を卒業生に対しアンケート調査したところ, 勉強については他高専と殆ど同程度であるという評価であったが, クラブ活動については高い評価が出たので, その原

* 宇部工業高等専門学校一般科

因を分析しそこから将来への指針を読みとった。

2. 調査方法

1) 卒業生へのアンケート調査

本校卒業生のアンケート調査は平成4・5年に本校を訪れた卒業生に対し、無作為に行なった。アンケート内容を(表1)に示す。対象人数は255名で回収率は100%であった。

2) 体育系クラブの全国高専大会における成績

高専のクラブ活動のうち全国大会の行なわれているものについては

第26回全国高専体育大会記録

第24回全国高専サッカー選手権大会記録

第18回全国高専ハンドボール選手権大会記録

第14回全国高専硬式テニス選手権大会記録

第22回全国高専ラグビーフットボール大会記録

第15回全国高専バドミントン選手権大会記録

を基本的に参考とした。記録は団体3位までとした。

3) 本校における学生の運動能力テスト

文部省要領スポーツテストを毎年6月に実施した。なお、結果は1～3年生は全国全日制高校生と4、5年生

表1 アンケート内容

1. クラブ活動の経験が現在何に役立っていますか(2項目以内選択)。
 - ①健康 ②人とのつきあい ③仕事への取り組み ④家族コミュニケーション ⑤地域活動 ⑥精神的強さ ⑦その他
2. 現在役だっていると思う順に番号をつけよ。
 - ①勉強 ②寮 ③クラブ ④友人 ⑤卒研
3. 学部高専卒業生は、他高専と比べて次の点でどう思いますか。
 - A 勉強面で
 - ①優れている ②同程度 ③劣っている
 - B クラブ活動で
 - ①充実していた ②大差なかった ③活発でなかった
4. 後輩に対し、クラブ活動をどのように薦めますか。
 - ①必ず運動部に入ってがんばってほしい。
 - ②必ず文化部に入ってがんばってほしい。
 - ③できれば運動部に入って適度にやってほしい。
 - ④できれば文化部に入って適度にやってほしい。
 - ⑤クラブに入らず自分の趣味の世界を大切にしてほしい。

は全国高専生と比較した。

3. アンケート結果と考察

教育の成果は卒業生自身が最もよく判断出来ると考えられるので本校の卒業生にアンケート調査を行い、社会生活を経験した現時点で高専時代を振り返ってもらった。

まず、高専時代経験したもののうち何から多くのものを得たかを調べた(図1)。一位に挙げたもののうちでは圧倒的にクラブ活動が多く、寮・友人を加えると90%にも達した。しかしながら、勉強や卒研を挙げた卒業生は合計10%と非常に少なかった。

学生は毎日6～8時間教室で学び、我々教官も最も多くのエネルギーをそこに投入している。にも拘らず、その評価は残念ながら著しく低かった。このことは卒業後彼等が社会に出て得た専門的知識量が高専時代に得たそれをはるかに凌駕しているため、学生時代の知識量が相対的に小さく感じられたのか、あるいは学問に対する基本的熱意の欠乏の現れか不明である。いずれにしても学業に対するこの評価に関してはこれからの研究課題としたい。

そこで本校学生の勉学のレベルについて他高専との比較を尋ねたところ、データは示さないが同程度であると答えた。この点についての比較は困難であるが、一つの例として国立大学編入者数を調べてみると本校はほぼ中位であり、このことの裏付けの一つと考えられる。

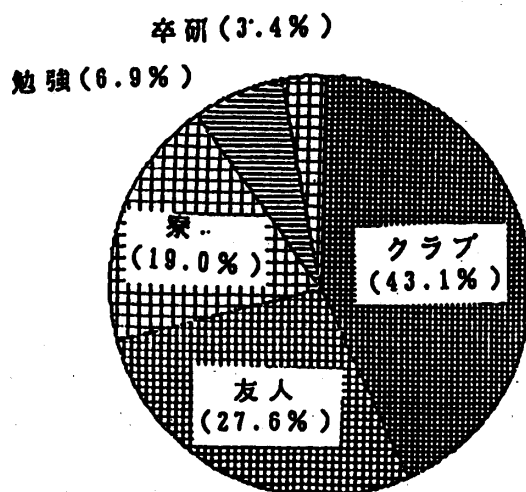


図1 現在一番役立っていると思うものは何かという問に対する答

表2 全国大会種目別結果

上:西暦 下:西暦	種目	優勝校	バスケット ボール	バレーボール	軟式野球	卓球	剣道	柔道	新道	バレーボール	バドミントン	ハンドボール	ラグビー	サッカー	硬式野球
1966	1位 2位 3位	佐世保 前橋 沼津	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1967	1位 2位	沼津 前橋	高松 石川	豊田 高松	宇部 高松	宇部 高松	宇部 高松	宇部 高松	宇部 高松	宇部 高松					
1968	1位 2位 3位	佐世保 前橋 沼津	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1969	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1970	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1971	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1972	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1973	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1974	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1975	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1976	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1977	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					
1978	1位 2位 3位	佐世保 前橋 高松	高松 石川 宇部	豊田 高松 津山	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋	宇部 高松 一ツ橋					

表2 つづき

上: 西暦	成績	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	軟式野球	卓球	柔道	剣道	硬式野球	サッカー	ラグビー	ハンドボール	バドミントン	様式野球
1979	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1980	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1981	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1982	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1983	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1984	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1985	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1986	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1987	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1988	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1989	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1990	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見
1991	1位 2位 3位	陸上競技 佐世保 豊田	秋田 秋田 明石	豊田 長岡 宮田	高松 高松 有明	部全 宇部 宇部	高八 小八 明八	鹿見 有山 山	阿部 鹿見 明石	鹿見 高山 鹿見	久留米 佐世保 神戶	鹿見 一岡 鹿見	高岡 一岡 鹿見	高山 鹿見 鹿見

表3 全国大会学校別得点

地区：学校名	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回
北海道：函館小		1			1	2		3	2	3		3	1
函館小							7						2
東北：八戸	3					3				1	1	3	
八戸	1				1					2	3	3	4
宮城田岡				2		2		1				3	4
秋田						3	3	5	3	1	3	3	1
仙台		3	1		3	4	3					4	3
岩手													
茨城													
信州：衣笠					2		5	3	2				
衣笠													
長野		1		3		1				2	6	5	1
東京：立空		9	3	3	1	2							
立空		3	4	2									
千葉				3	1		2			1		1	
山梨							1			4			
北陸：石川									1	3			
石川											1	2	
福井													1
滋賀				1	3		2	2	6	3	3	4	7
岐阜						2	2	2	3	3	2		2
愛知：皇	5	4	2	2	2				1			3	9
皇	3	2	2	2	3		3	2	2	1		3	3
徳島											3	3	3
香川													3
近畿：奈良										2		2	1
奈良											2		
和歌山					4	1	1	3	2		2		
大阪：立野		2	2		1	1	3	2	2	6	1	1	1
立野					3	3	3	1	3		2	2	4
京都													
中国：子			1		2	2	1	2	8	6	5	4	
子	1	2	3	3	4	3			3	1		5	1
岡山			3	2		1	7	4				5	3
広島	9					3		8	7	1	2	5	7
鳥取							2			3			2
四国：南	5	4		1	3			1			3	3	
南		2				3		2					
高松	3					1							
香川							2						
九州：久	2	3			1	3		1	4	6	1	3	3
久					3	3		2		3	3	1	3
福岡					2	4	3	6	3	8	9	3	4
熊本	3	1	4	3	2	3			3	1	3	3	3
鹿児島		1	2							2	5	1	3
沖縄				1	2						6	3	3

表3 つづき

14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	合計
1						2	1				3		24
													10
													0
2		2	1	2	1	2	1		3	2	4		24
3	1	3	2			3	4	3		3	2	1	23
4	4			4	6	3	3	5	3	3			34
													9
													4
													0
													70
1		2	3		2	4		2					18
													6
4	8	4	2	3	2	3	2	1	2	2	2	3	56
													5
													0
2						1	1	2	2	1			22
													14
													10
													28
													67
													2
5	5	1	3	3	1	3	3	2	2	3			58
													4
													30
													23
													45
													5
													2
													51
													2
													7
													24
													4
													5
													5
													45
													90
													2
													12
													48
													6
													30
													9
													0
													7
													26
													37
													8
													2
													9
													7
													48
													27
													9
													2
													105
													8
													44
													16
													13
													2

次にクラブ活動への評価がきわめて高かったので全国高専における位置付けを調べるため、これまで行われた全国大会の成績を上位3校まで各種目別に集めた(表2)。またこれを1位3点、2位2点、3位1点として、各校の獲得点数を求めた(表3)。各高専によりその創立時期、内容等に大きな差があり合計点だけの単純な比較では、本質を把え得ないきらいがあるかもしれないが、概観して考察を進めるためにこの方法を採用した。本校は一期校であり、30年間の成績に上下の波はあるものの全国大会に関してはかなり良好な成績を残した。その原因を探ることは将来に対しても意味のあることと考え、本校の成績を学校の歴史と共に振り返った。

本校は全寮制であり寮とクラブの関係はきわめて密接なので好成績を残し得た原因をクラブと寮の2つの側面から考察してみた。本校では幸いにも学校創立の時点でクラブと寮とがDNAの二重らせん構造のようにからみ合って互いを刺激し発展してきた。即ち、昭和37年に学校が創立された当初はきちんとした寮もない状態であったが、昭和38年に1・2年生がそろった時点で体育教官が一年間寮内に泊まり込み、寮体制の基礎作りが行われた。教官と学生という枠を越えた教育の中から毎朝の基礎体力養成トレーニング、夜の自習、点呼、門限をはじめ、寮の大きなシステムがこの1年で作られた。この一年間の成果は単に寮システムの構築という面だけにとどまらなかった。即ち、きびしい試練を乗り越えた学生は心身共に成長し、それが大きな自信にもつながったと思える。この寮のシステムと精神的骨組みは以来30年余り全寮制の下で寮生によって守り伝えられた。

その主なものは次の3点である。

- ①早朝体力養成トレーニング(ランニング・柔軟体操・補強運動)を毎日1時間実行した。
- ②入寮時にできるだけ運動部に入ろうという雰囲気があった。
- ③寮生会役員に結果として運動部員が多かった。

また、本校独特の全クラブ合同トレーニングを春休みに行いお互いに切磋琢磨し、各クラブ間でいい意味でのライバル意識が生まれた。

これらのことは他高専に於いても似たような状況を生じた可能性が考えられるが、本校の場合その密度はきわめて高いものであった。このことを客観的に確認するために、トレーニングがきびしく行われていた昭和51年度と、時代と共にゆるやかとなった昭和61年度の運動能力テスト結果を各年度の全国平均と比較した(図2)。昭和

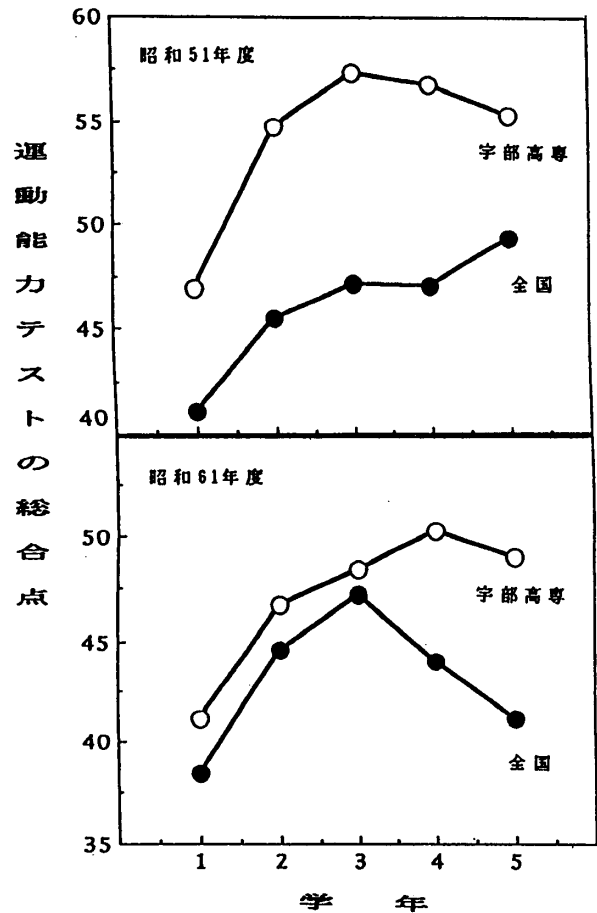


図2 運動能力テストの全国平均と本校との比較

51年度については明らかに全学年にわたって全国平均を大きく上回っている。しかしながら昭和61年度のそれは大きく低下し全国平均と殆ど等しくなった。これらの結果は本校の学生に対するトレーニングシステムが昭和60年頃までうまく機能し学生の体力養成に大きく貢献していたことを示している。このように本校の30年間を振り返った時、勉強の面では平均的であったものの、クラブ活動とそれに伴う体力養成の面ではきわめて良好な成果が得られていることが判った。

4. 高専教育への提言

高専が15~20歳の青少年の教育にたずさわる限り、少年・少女から青年への成長・自立が絶対に避けることの出来ない第一義的な教育目標となる。その自立のためにはさきに挙げた知育・徳育・体育の3点が必要であろう。

これらを得て学生は社会に出ることになるが、5年間で学生は高専からなにを得たか、逆にいえば高専は何を

学生に与えることが出来たかという問いかけは我々教官にとってきびしいものである。我々教官はややもすると「知的成長」にかかわる部分を教育の大きな目標にとらえがちである。

今回のアンケートだけでは即断は出来ないが、我々がその多くの時間とエネルギーを費した「知的成長」に対し、そのレベルは他高専と同じであるとはいえ卒業生が低い評価しか下さなかったことについては謙虚に反省しなくてはいけないであろう。

その反面、卒業生の約90%が学生の自立の過程でクラブ活動や寮生活など徳育・体育にかかわる部分を最も重要と考えた点に我々は注目しなくてはいけない。我々教官の立場から考えると高専の教育に関してどうしても「知育」に重点を置くのはやむを得ない。しかし、卒業生の視点とのこの大きなギャップを常に認識しておくことはこれからの高専教育にとって非常に重要なものであることを強く提言したい。

特に、高専が現在直面している学科改組、専攻科・新学科設置などはいずれも知育にかかわる部分であるだけに、これらの施行を目標とするならそれに倍するエネルギーを徳育・体育の部分にも注ぎ込むことを前提としないければならないであろう。そのことがまた知識欲の増加にもつながることは前回の我々の報告でも明らかにした。

また、本校に於いてクラブ活動が良好な成績をあげ、卒業生も高い評価を与えている原因については創立時の寮やクラブのシステム作りの成功が考えられる。このことを勉学の面に応用するなら、クラブ活動の場合のような明確な目的意識を学生に持たせるため、学校全体のシステム作りが緊急に必要であると考えられる。

おわりにこの論文作成に際し、長井啓(米子)、石嶋篤(呉)、留岡正(富山商船)、井上弘之(久留米)、河原健次(松江)の諸先生方と久留米、呉、米子の各学生係にお世話になったことをここに深謝致します。

参考文献

- 1) 「高等専門学校設置基準・高等専門学校教育 課程の標準」文部省大学学術局技術教育課(1972.9)
- 2) 「高専の振興方策」高専振興方策特別委員会 報告、国立高等専門学校協会(1981.6)
- 3) 梅野善雄・島 美「一関高専における5年間の学生生活に関する学生の意識調査について」高専教育、第6号(1983.2)
- 4) 木更津高専、特集号、21世紀に向けての高専 教育(1992.3)
- 5) 富岡耕平ら「茨城高専におけるクラブ活動の実態調査」高専教育、第6号(1983.2)
- 6) 千葉陽一ら「高等専門学校における課外活動 とその問題点」(1987.3)、昭和61年度文部省高等専門学校教育方法改善経費研究プロジェクト
- 7) 山岡ら「クラブ活動を通してみた高専教育について」高専教育、第11号(1988.2)
- 8) 井谷義明ら「人間性の育成に果たす運動クラブの役割について」高専教育、第13号(1990.2)
- 9) 細野信幸「高専生活におけるクラブ活動の位置づけ」高専教育、第14号(1991.2)

(平成6年9月20日受理)